

# 道博協ニュース

## 浦河大会特集号

発行所 北海道博物館協会  
事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
北海道開拓記念館内  
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

### 第37回北海道博物館大会 7月2・3日浦河町で開催

既に会員の皆様には開催要項ほかをご案内いたしました。第37回北海道博物館大会及び平成10年度北海道博物館協会総会を、来る7月2・3日の両日、浦河町にて開催いたします。浦河町での開催は、昭和55年の第19回大会以来の開催となりますが、今大会、総会に向け浦河町・浦河町教育委員会・浦河町立郷土博物館の全面的な協力を得て着々とその準備を進めております。以下、あらためてその概要をお知らせいたします。

**会期** 平成10年7月2日(木)・3日(金)

**会場** 浦河町総合文化会館(浦河町大通3丁目52番地、電話01462-2-5000)

**大会テーマ** 『生涯学習の町づくりと博物館の役割』

**日程** 7月2日(木) —— 1日目 ——

- ①受付 9:30～10:00 (総合文化会館3F ふれあいホールロビー)
- ②開会式・総会・特別報告・表彰式 10:00～12:00
- ③昼食 12:00～13:00

＝ 大会開催地 ＝

### “優駿のふるさと”浦河町と 視察施設の紹介

浦河町は、日高の東部に位置し、雄大な日高連峰を背に、洋々たる太平洋の海岸線沿いにあり、支庁所在地として日高圏域の中心となって発達してきた街である。

「浦河」の地名は、アイヌ語の「ウララベツ」

④特別講演 13:00～14:30

演題：『歴史に刻まれた馬の文化』、講師：馬事文化財団馬の博物館学芸部長 末崎真澄氏

⑤シンポジウム 14:30～16:30

テーマ：『生涯学習の町づくりと博物館の役割』、司会：様似町教育委員会社会教育課長 水野洋一氏、報告1「浦河町立郷土博物館における教育普及活動」、浦河町立郷土博物館主任学芸員 川内基氏、報告2「住民活動と博物館 —文化継承と地域振興に果たす博物館の役割を考えながら—」、平取町立二風谷アイヌ文化博物館協議会委員 貝澤徹氏、報告3「生涯学習と開かれた博物館」、釧路市立博物館館長補佐 橋本正雄氏

⑥閉会式 16:30～16:40

⑦懇親会 18:00～20:00 (総合文化会館3F ふれあいホール)

7月3日 —— 2日目 ——

①視察見学受付 8:30～9:00

②町内施設等見学 9:30～12:15 うらかわ優駿ビレッジ「アエル」、浦河町立郷土博物館及び浦河町馬事資料館、(仮称)浦河町立伏木田光夫美術館、日本中央競馬界「日高育成総合施設」(日高種畜牧場メモリアルホール等)

(霧深き川の意味)が転訛したものである。

本来は、江戸時代初期に松前藩が設けた浦河場所のあった元浦川の下流(現在の荻伏町)を指して「ウララベツ」と呼んでいた。しかし、中期に幕府直轄となり、元浦川の会所をトマリ(現在の浦河市街)に移したため、そのままの地名で呼ばれたとされる。

浦河町は、和人の往来が約550年前と伝えられて、道内では、松前地方に次いで早くから開けた町である。

開拓まもない明治時代から、内閣馬政局直屬機関として「日高種馬牧場」が設置されるなど、約100年の馬産の歴史を有する町でもある。

緩やかな丘陵に連なる牧場地帯は、日高幌別川沿いの西幌別地区と元浦川周辺の荻伏地区にあり「サラブレッド銀座」の愛称で親しまれている。

これまでに、浦河町は、五冠馬「シンザン号」をはじめ、数多くの名馬を産出してきたが、今は優駿ビレッジ「アエル」を拠点施設とし“やすらぎ”をキーワードに、馬との触れ合いやスポーツを通して交流の輪を広げる「優駿の里づくり」構想が進められて、新しい「サラブレッド文化」の創造が始まっている。

町制施行80周年を機会に、市街地は、商店街の近代化事業が進められて、地元商店を中心としたショッピングセンターや大型スーパー、ホテルのほか、総合文化会館・町立図書館が集約されて近代的な街並みを形成している。また、“丘と海のみまば”を象徴するように、馬をモチーフとする街灯や鮭が描かれたカラフルなタイルの歩道が整備されて、新しい浦河のストリートへと変貌し街の活気を生み出している。

いま浦河町は、大自然と馬と触れ合いながら生きる喜びを実感できる街にしよう。そして、“生涯学習の町”を宣言し、町民一人一人が自ら進んで学習を積み重ね、生活実践できる街にしようと努めている。

さて、大会2日目の町内施設の視察見学であるが、施設の概要を紹介する。

#### 「JRA日高育成総合施設」

JRAでは、西舎地区に欧米の競馬先進国なみの調整施設を建設し、日々若馬たちのトレーニングを積んでいる。

ここには、丘陵に整備された広大なグラス馬場や世界一を誇る1,000メートルの屋内直線馬場のほか、馬の屋内運動場、宿泊施設、診療所などレベルの高い施設が完備されている。地元の牧場が

利用して、生産と育成の面から「強い競走馬づくり」に励み、その効果を上げている。

#### 「浦河町立郷土博物館」

馬のふるさと浦河らしく、入口には32頭の馬像を乗せた「優駿の門」が聳え立っている。

かつて小学校だった建物を改造した博物館に、浦河で出土された土器などの遺物を始めとして、開墾のために使われた用具、農業や漁業の歴史を語る資料等を多数展示している。

#### 「浦河町馬事資料館」

郷土博物館のすぐ隣にある八角形の建物で、日本でも珍しい馬の博物館である。

館内に、明治31年に製作された迎賓用の馬車、名馬シンザンの父・ヒンドスタン号の剥製、JRAのレースで活躍した名馬の写真、世界各地の玩具等を展示している。

#### 「浦河乗馬公園」

町民にスポーツとしての乗馬を普及させるために、国体馬術競技大会跡地に作られた施設で、現在は町民乗馬大会や馬術大会のほか、各種乗馬教室を開くなど、幅広く活用している。

#### (仮称)「浦河町立伏木田光夫美術館」

浦河町出身の画家として活躍している「伏木田光夫」氏より寄贈された絵画作品を展示の核に、町民が創作し、鑑賞できる場として、美術文化を交流する美術館である。

#### 優駿ビレッジ「アエル」

浦河町を訪れた人々が、四季それぞれ表情を変える美しい自然の中で、馬との触れ合いを通して交流の輪を広げることのできる施設である。

宿泊のできる優駿ロジヤゲート厩舎、食事のできるレストランや喫茶ラウンジ・バーベキュー棟、製作体験をするクラフト棟、馬との触れ合いを楽しむ乗馬ができるなど、心の休日を送ることができる。

(浦河町立郷土博物館 館長 谷岡 隆志)



浦河の歴史と文化を語る「浦河町立郷土博物館」



今日から森の住人 うらかわ優駿ビレッジ「アエル」

## 道東地区の情報

### ◆道東3管内博物館施設等連絡協議会

釧路・根室・十勝地域の博物館施設等の情報交換・事業の連携等を計ることを目的に平成2年に設立されました。新たに、足寄町動物化石博物館（平成10年7月開館）、別海町郷土資料館、厚岸町水鳥観察館が加入し、現在23の館・園で構成されています。

協議会の平成10年度総会は5月20日に釧路市博物館を会場に開催され、今年度の事業計画、予算等が決定し、役員改選も行われました。

今年度の事業は10月11・12日に中標津町を開催地に交流推進会議を開催する方向で、事務局と開催地が内容について協議をすすめます。

また、任期満了にともなう役員改選が行われました。新役員・事務局は次の通りです。

**【新役員】** 会長：七田龍夫（釧路市立博物館）。副会長：加藤茂實（根室市博物館開設準備室）、村田博（帯広百年記念館）。理事：本別町歴史民俗資料館、阿寒町公民館、別海町郷土資料館。

**【事務局】** 釧路市立博物館。

### ◆十勝管内博物館学芸職員等協議会

平成5年に十勝管内に博物館施設等と職員の連携を深めることを目的に設立され、36名の会員で構成されています。

5月27日に開催された総会では、9年度の決算・事業報告、10年度の予算・事業等の審議、各館・園の情報交換が行われました。

今年度の研修会は、9月3・4日に足寄町を会場に開催される北海道博物館協会学芸職員部会と共催することが決定しました。

また、総会終了後、藤山広武氏（十勝の自然史研究会代表）を講師にお招きし、「十勝平野の生い立ち」というテーマの講演をいただきました。

（帯広百年記念館主任 北沢 実）



十勝管内博物館 学芸職員等協議会 講演会

## 七飯町歴史館

### 手づくりのオープン記念特別展開催！

3月1日～5月31日

函館の北16キロ。赤松街道と国定公園大沼を擁する七飯町は、江戸時代末に八王子千人同心が開拓入植した。歴史館はこの3月オープン。館には学習サービス室や昔の遊び体験広場もあり、入館無料で、だれもがいつでも気軽に学習できる。

記念の特別展は、「七飯町発展の源流を」ということで、「八王子千人同心と七重」とした。七飯町郷土史研究会が当時の写真をもとに共同制作した「八王子千人同心像」や、既存の資料に併せて苫小牧市が八王子市から借用した資料も陳列。同会会員は「歴史館協力員」として来館者への解説や案内に協力。その地道で精力的な支援とユニークさで、町内外のたいくさんの方々に有意義な学習機会を提供できた。

郷土史研究会は昭和62年7月に同志25名で発足。「七重学校」の開設、郷土カルタの作成、往時を偲ぶ川下りの実施、月刊機関誌「温故知新」の発行等々、120名の会員が歴史や体験学習を実践し

ている。歴史館はそのような活動の中から誕生したと言っても過言ではない。

なお、七重学校とは、明治10（1877）年に七重勸業試験場長湯地定基の発意で開校。現在の七重小学校の前身である。現在の七重学校は郷土史研究会がその意思を受け継いで開設したもので、今年で10年目。一年間の学習の後、希望者は同会の会員になることができる。

昨年の町開基120年以來、八王子市と交流がいろいろな面で続けられているが、小さな輪が大きく広がっていくことが期待される。

人と物と施設が一体となって豊かな人間性育成に役立ちたいと意欲を燃やしている昨今ですが、試行錯誤の状態です。先輩各館各位の暖かいご支援とご指導をよろしくお願いいたします。

（七飯町歴史館 特別学芸員 長川 清悦）



特別展「八王子千人同心と七重」のスナップ

## 第14回(平成10年度)道北地区 博物館等連絡協議会総会、 研究討議を終えて

平成10年5月28、29日の2日間に渡って第14回(平成10年度)道北地区博物館等連絡協議会の総会と研究討議が士別市において開催されましたので、その内容について報告します。

総会の参加市町村及び人数は11市町村、14人と公民館の大会と重なったために、例年より少ない参加となりましたが、活発な意見討議がかわされました。

総会では平成9年度の事業報告として、総会、巡回展「アンモナイト」展、研修会、「北の先史文化フォーラム」、理事会等の事業報告と会計決算報告がなされました。引き続き、平成10年度の事業計画(案)として、総会、第11回巡回展「戦後の流行歌」、平成10年度会計予算(案)がだされ一括審議されましたが、原案のとおり了承されました。

平成10年度の巡回展「戦後の流行歌」に関しては、今回の巡回展の企画・制作等を行った士別市

博物館の水田学芸員から昭和21年～昭和64年をレコードのジャケットで時の流れを象徴的にみてもらい、合わせてレコード・オーディオの歩みを年表で見ってもらうとの説明があり、今週中には組み上がるので、巡回の順序、巡回方法等については事務局で早急に決めることとしました。

研究討議「博物館・資料館職員に現在求められていること」では、参加者全員からそれぞれの置かれている立場からの問題点・課題が出されました。出された問題点・課題は博物館・資料館など社会教育関係の仕事が生涯学習の普及とともに多様化、複雑化するなかでどのようにして本来の事業である、調査研究、資料の収集保存、教育普及活動を実践していくのかということに集約されていたと思います。この答えの結論は出るべくもないのですが、それぞれの実践例としてボランティアの活用法、巡回展の充実など活発な意見交換がありました。

夕方からの懇親会は今回の出席者が若い学芸員が多かったせい、これからの活動のあり方、問題解決の方法などについてなど有意義な懇談会だったと思われました。

(道北地区博物館連絡協議会会長 鈴木 紘一)

## コンピュータによる 地方博物館の展示

知床博物館は昭和53年に開館し今年で20年になり、平成5年には姉妹町友好都市交流記念館が博物館に併設された。交流記念館開館までは専用の特別展示室を持たず、映像展示室を使つての展示で期間も限られていた。交流記念館1階ロビーは特別展、ロビー展に利用され、博物館の調査研究活動で得られた成果を広く町民に紹介する、1年を通じての企画発表の場となった。そしてコンピュータシステムの発展により、地方の博物館でも水準の高い効率的な展示が可能になった。

コンピュータの博物館活動への応用として最初に期待されたのが収蔵資料の管理であった。しかし共通フォーマットが決まらず、他館とのデータ交換はなかなか進まなかった。一方、現在コンピュータ利用としてワープロがほとんどであるように、特別展や展示替えの解説文の製作に拡大コピーの進歩と歩調を合わせてコンピュータが積極的に使われ始めた。それまでは予算があれば印刷会社への発注、無ければ活字を切り張りしてそれを一度写真に撮影し、印画紙に焼き付けするという手間

を必要とした。当時は学芸員として写真現像と焼き付けが必修技術であり、学芸員研修でもしばしばテーマに選ばれた。

また最近では展示写真もコンピュータとカラープリンタにより、展示に十分耐えうる画質で即座に低価で作れるようになった。さらにシステム化された展示ボードとカラフルなカラーボードの供給、及び当博物館独自のアクリル板を使った展示工夫により展示作業が大幅に短縮された。

当博物館では、展示にもコンピュータを利用し、限られた空間で視覚に訴えた展示 — 「流水情報」と「鹿についての情報とクイズ」 — を行っており、来館者に好評を得ている。両者ともオーサリング(展示用)ソフトを利用して職員が製作したものである。

当博物館のように展示予算に制約があり、写真現像に時間がかかる地方博物館としては、インターネットの普及による情報の地域格差が無くなりつつあるようにコンピュータシステムの発達には地方博物館には大きな恩恵をもたらした。解説文や展示写真の製作に予算と時間の制約が取り払われつつある現在は学芸員としての実力が問われつつある時代であると思われる。

(合地信生：斜里町立知床博物館学芸員)

## 沙流川歴史館オープン!

7月25日、沙流川歴史館が平取町立二風谷アイヌ文化博物館横にいよいよオープンする。

今年の2月、平取町立二風谷アイヌ文化博物館において開催された日胆地区博物館等連絡協議会学芸員研修会の折りに、森岡健治学芸員の案内で工事中の歴史館を見せてもらい、新博物館の誕生に管内の博物館関係者から大きな期待が寄せられていた。

建設主体は北海道開発局室蘭開発建設部。開館後は平取町が室蘭開発建設部から委託を受けての管理運営となる。設立目的は、1)二風谷ダム建設工事や治水、利水及び沙流川流域の自然に関する資料や情報を収集、保存、展示すること、2)発掘によって出土した埋蔵文化財を収集、保存、展示することにより、沙流川流域の自然と歴史について地域住民への啓蒙、普及に努めるとなっている。

特に昭和58年、59年、60年の3カ年に及ぶ大がかりな発掘調査結果を基礎に、展示では、二風谷遺跡、コオイチャシ跡、ポロモイチャシ跡等の充

実したアイヌ期間関係資料や発掘調査現場を精巧に復元した大がかりなジオラマ展示は見応えのあるものになりそう。また、沙流川流域の自然の再現の生態ジオラマでは、鳥獣類はすべて地元の優れた工芸家による完成度の高いカービングが導入されているのも地域性を存分に活かした特徴ある展示となっている。

また、館には設備の整った実に立派なレクチャーホールがあり、新しくできる建物の特権的良さが備わっており、羨望の的となりそう。

多くの博物館なかまとともに、沙流川歴史館の誕生を大きなエールをもって心から祝いたい。

(苫小牧市博物館主査 吉田 国吉)



沙流川歴史館全景

## 円山動物園に新しい顔が誕生

昭和26年5月に開園した円山動物園が、まもなく半世紀を向かえることから、「創立50周年記念再整備事業」の一環として、この4月17日に新しく動物園センターをオープンしました。

このセンターは大きく分けると4つの機能を持っています。

### ①情報ホール

サル山やクマなど広い園内に点在する動物舎6ヶ所に設置したカメラで、エサを食べている様子や子育てなど動物の生態をリアルタイムに観察できる12面マルチビジョンがあります。

### ②情報体験コーナー「NET・ZOO」

タッチパネルのコンピューター端末5台で、飼育している動物の情報や、飼育係のメッセージ・国内動物園のホームページ・動物クイズなど8つのメニューが楽しめます。

### ③体験学習室

動物をよく知るために、標本や実験用機器を使って学習するコーナーです。

### ④動物園プラザ

園で行う動物画コンクールや年賀状コンクールなどの展示会場として、また動物に関する各種講習会やサークルの発表展示と集会にも利用できる多目的スペースです。

この動物園センターは、動物の生きた情報を発信する基地として、子供たちがもっと動物を好きになり、生命の大切さを学ぶ社会教育施設として利用され、また素晴らしい野生動物を知ることによって、その生息環境まで考える環境教育施設としての役割を果たすことが出来るよう努力していきたいと考えております。

(札幌市円山動物園 園長 長尾 章郎)



新しくなった動物園の正門と動物園センター

## 館 園 紹 介

### 静内町郷土館とアイヌ民俗資料館

静内町は、太平洋沿岸日高の中部に位置しており、道内では比較的温暖な地域として知られております。町内には遺跡数も多く、古くから人間にとって住みやすかったことがわかります。

かつての御料牧場にある通称「二十間道路」は、全長約8kmに及ぶ桜の並木道として毎年多くの観光客が訪れています。また、競走馬の産地としても全国に知られており、現在は日高の経済の中心地として発展しております。

#### 静内町郷土館

静内町郷土館は、町内中心部文教地区にあって、昭和44年に開館し現在4,500点余りの資料を収蔵しております。主に静内町内で発掘された考古資料や農具、漁具など様々な民俗資料、動植物標本などが展示されております。

特に「御殿山式」あるいは「静内中野式」といった町内の遺跡名のついた土器類は、標識資料として広く知られているもので、北海道の縄文時代の代表的な土器として注目されています。

「御殿山式」は、縄文時代後期から晩期にかけての土器形式で、鉢形などの土器のほか、土偶、石や土で作られた各種装飾品、漆塗りの櫛、奇妙な形をした土器などバラエティーに富んだ遺物が特徴的で、当時の豊かな生活の一端を窺い知ることができます。これらの資料は「静内御殿山墳墓群出土の遺物」として北海道指定有形文化財に指定されております。



静内町アイヌ民俗資料館

静内川の左岸は、牧場が続く緩やかな丘陵地帯が広がっており、その一角にアイヌ民俗資料館が

あります。アイヌの民家チセを模した建物で、昭和58年に開館し、主に静内地方に伝わるアイヌ民具資料を展示しております。

資料館を含む一帯は、「シャクシャイン」に関わりの深い「チャシ」や「シャクシャインの像」もあり、現在公園として整備されております。

近くにある「シベチャリチャシ跡」や「ホイナシリチャシ跡」は昨年12月に国の史跡に指定されております。チャシの上からは、眺望の良い日には遠く羊蹄山や下北半島までも見渡すことができます。

資料館は、狩猟具・漁労具、儀式用具、食料などとテーマごとに写真資料を交えながら展示されております。館内部には、炉も設けられ、かつての料理を再現した写真パネルや乾燥保存した食料などこの地方の伝統的な食生活を知ることできます。

また、資料館には極めて珍しい「エゾオオカミ」の頭蓋骨が資料として展示されています。オオカミはアイヌ語で「ホロケウカムイ」と呼んでいたといいます。かつて日高には沢山のオオカミが生息していましたが、家畜（特に馬）の被害が大きかったことから毒殺され、明治期には絶滅したといわれております。このオオカミの頭部は左側が小さく穿たれており、中には削り掛けが納められ、アイヌの儀式によって取り扱われたことがわかります。

静内地方で最初に作られたといわれているチカルカルベという儀式用の着物もあります。木綿の着物に白い大きな布を切り伏せて模様をつける独特なスタイルで、その技法は現在にも受け継がれています。



入館料はともに無料。休館日は、郷土館：月曜日、祝日の翌日、12月30日～1月5日。資料館：月曜日、祝日の翌日、12月1日～4月30日。

(静内町郷土館学芸員 藪中 剛司)

## 館・園の主な展覧会と普及事業

(7月～9月)

## 石狩

- 江別市郷土資料館 (011-385-6466)  
8. 1～31「明治の建物展」、9. 1～30「ふるさと歴史写真展」
- 札幌芸術の森 (011-582-5111)  
7. 4～8. 30「イサム・ノグチ展」
- 札幌市豊平川サケ科学館 (011-582-7555)  
7月中「琴似発寒川さかなウォッチング」
- 北海道立文学館 (011-511-3266)  
7. 25～7. 31「親子で絵本づくり1」、8. 22 文学セミナー「有島武郎と札幌の家」

## 渡島

- 楳法華村灯台ファミリー博物館 (0138-86-2110)  
5. 1～9. 30「第4回楳法華村写真コンテスト」、9. 27「自然体験事業」
- 市立函館博物館 (0138-23-5480)  
6. 2～8. 23 企画展「昭和30年代の函館」、7. 22～9. 13 特別展「北前船と蝦夷地」
- 八雲町郷土資料館 (01376-3-3131)  
7. 25「第6回化石体験学習」、8. 2・30「第7回縄文土器づくり教室」
- 函館市北方民族資料館 (0138-22-4128)  
7. 28 講座「北方民族の切り紙細工をしよう」、8. 22 講座「アイヌ紋様刺しゅう教室」

## 檜山

- 今金町教育委員会 (01378-2-2026)  
7. 25～8. 23 特別展「ピリカカイギョウ復元骨格完成披露展」
- 開陽丸青少年センター (01395-2-5522)  
8. 1 東北・北海道交流事業「ふるさと文化伝承の集い」
- 江差追分会館 (01395-2-0920)  
4. 29～10. 30「江差追分定時実演」
- 瀬棚町郷土館 (01378-7-3205)  
5～11月 常設展示「日本女医第1号 荻野 吟子展」

## 後志

- 荒井記念美術館 (0135-63-1111)  
3. 31～7. 12 収蔵品展「ピカソと子供たち」、7. 18～11. 1「北の版画家たち展'98」
- 有島記念館 (0136-44-3245)  
6. 20～7. 10「第10回有島武郎青少年公募絵画展」、9. 4、18、25「有島武郎講座」
- 黒松内町ブナセンター (0136-72-4411)  
7. 16 講演会「自然の不思議」
- 小樽市交通記念館 (0134-33-2523)  
7. 18～9. 6「'98みなとパネル展 一くらしの元

気は港から一」

## 空知

- 栗山町開拓記念館 (01237-2-6035)  
9. 12～10. 11 特別展「栗山発展物語 一治安と厚生一」
- 砂川市郷土資料館 (0125-52-2339)  
7. 1～7. 7 特別展「氷原帯50年の歩み展 一東洋高压とともに一」
- 美唄市郷土史料館 (01266-2-1110)  
7. 29～8. 29 特別展「白亜紀の化石アンモナイト展」
- 三笠市立博物館 (01267-6-7545)  
6～10月「自然観察講座」、7. 19～9. 23 特別展「日本最古の化石サンゴ礁」

## 上川

- 士別市立博物館 (01652-2-3320)  
6. 14～6. 28「夏の自然展」、9. 5～9. 20「日本版画協会士別展」
- 中川町郷土資料館 (01656-7-2419)  
4. 25～10. 31「中川町産の化石動物展」、7・8・9月の下旬「地層観察教室」
- 中原梯二郎記念 旭川市彫刻美術館 (0166-52-0033)  
7. 15～8. 30「石井鶴三挿絵展 一「宮本武蔵」を描く一」
- 名寄市北国博物館 (01654-3-2575)  
7. 18～8. 30 特別展「昆虫展」、9. 5～9. 16「超新星と天体」

## 留萌

- 金田心象書道美術館 (01632-5-2720)  
7月 心象館コンサート「音のあるひととき」
- 増毛町総合交流促進施設 元陣屋 (0164-53-3522)  
7. 22～7. 26 絵画展「留萌管内移動美術展 一会員会友展一」
- 苫前町郷土資料館 (01646-4-2954)  
5. 1～11. 10 特別展「三毛別ヒグマ事件」
- 留萌市海のふるさと館 (0164-43-6677)  
7. 25～8. 23 特別展「北海道の民家 一漁場建築を中心に一」

## 宗谷

- 利尻町立博物館 (01638-5-1411)  
7月「会津藩士北方警備講座」8月「コウモリ観察会」

## 網走

- 美幌博物館 (01527-2-2160)  
6. 2～7. 20 企画展「寄贈資料展」、7. 27～9. 7 企画展「オホーツクの蝶展」
- 北海道立オホーツク流氷科学センター (01582-3-5400)  
6. 30～9. 6「オホーツク発・夏だより」、8. 11～8. 23 大館和広・堀定子「オホーツク讃歌」

- 紋別市立郷土博物館 (01582-4-9755)  
8. 4～8. 30 特別展「紋別地方の地図の歴史」、  
8. 29～8. 30 講演会「環オホーツク海文化の集  
い」

**胆振**

- 仙台藩白老元陣屋資料館 (0144-85-2666)  
7. 18～8. 23 企画展「仙台市博物館所蔵資料展」  
8. 7 観察会「陣屋跡ホテル見学会」
- 苫小牧市博物館 (0144-35-2550)  
7. 18～8. 30 特別展「出光美術館所蔵 ジョル  
ジュ・ルオー展」
- 登別市郷土資料館 (0143-88-1339)  
7. 11「絞り染め」、8. 22「こけし人形の絵付け」、  
9. 5～9. 15「陶芸展」
- 室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)  
7. 25～8. 30「消えた風景・室蘭の古写真パネル  
展」、9. 9～10月末「私のお宝・市民コレクション  
展」

**日高**

- えりも町郷土館 (01466-2-2410)  
7. 25「ハイケボタルと夏の星空観察会」、8. 13  
「流星観察会」
- 静内町郷土館 (01463-6-3355)  
8月中旬 特別展「馬具・装蹄具展」
- 門別町図書館郷土資料館 (01456-2-3746)  
8. 1～30 特別展「門別町のチャシ」

**十勝**

- 浦幌町郷土博物館 (01557-6-2009)  
7月下旬「親子史跡見学会」
- 忠類ナウマン象記念館 (01558-8-2826)  
7. 25～8. 17 特別展「三葉虫とアンモナイトが  
繁栄した海」
- 幕別町ふるさと館 (0155-56-3117)  
8. 9 体験学習「ふるさと館祭り」

**釧路**

- 標茶町郷土館 (01548-7-2332)  
8月 体験教室「わんぱく自然科学教室」
- 釧路市青少年科学館 (0154-41-6225)  
8. 4～8. 9 特別展「身近な自然環境と地球」、  
8. 16「親子実験教室」
- 釧路市立博物館 (0154-41-5809)  
7. 11～8. 9 特別展「私の博物館」、8. 30～9.  
5「釧路管内理科標本展」

**根室**

- 標津サーモン科学館 (01538-2-1141)  
7. 18～8. 30 特別展「おもしろ世界のエビたち」
- 中標津町郷土館 (01537-2-2190)  
7. 19「土器作り教室」、8. 2～5「野外体験事  
業」
- 別海町郷土資料館 (01537-5-0802)  
年4回 特別展「収蔵資料、町民コレクション展」

**事務局日誌** (平成10年4月1日～6月3日)

- 4月1日 北海道開拓記念館長あて平成10年度事  
務局業務の協力依頼
- 4月10日 各地区博物館施設等連絡協議会に『文  
化施設の有効活用事例集』の送付
- 4月17日 札幌市円山動物園・動物センターオー  
プンに会長、事務局長出席  
—— (株)北日本コクヨ賛助会員加入
- 4月21～23日 平成9年度会計監査のため滝川、  
北見へ平川次長、金森事務局員出張
- 4月28～5月1日 臨時職員任用
- 4月30日 平成10年度道博協事務局員の職務免除  
道人事課へ申請(5月19日承認)
- 5月1日 平成10年度教育関係大会開催事業補助  
金交付決定
- 5月2日 平成10年度主な展覧会および普及事業  
計画再調査
- 5月13日 平成10年度道博協大会の共催、後援、  
祝辞、講演会講師等の依頼  
—— 第37回道博協大会実行委員会および事  
務局決定  
—— 北海道立釧路芸術館団体会員入会
- 5月14日 平成10年度道博協大会開催案内状送付  
—— 第63号「道博協ニュース」原稿依頼  
—— 平成10年度第1回役員会開催通知
- 5月19日 江別市教育委員会ほかに会長、事務局  
長挨拶
- 5月20日 日博協へ道立釧路芸術館加入推薦
- 6月2日 『北海道博物館ガイド』巻頭文送付
- 6月3日 第38回北海道博物館大会江別市開催の  
内諾書受領

**協会役員変更**

4月の人事異動により変更になりました。

副会長 七田 龍夫氏

(釧路市立博物館長、石黒 靖敏氏後任)

理事 鷲足 將成氏

(小樽市博物館長、本間 馨氏後任)

**平成10年度道博協事務局体制**

事務局長 山田 健 全体総括  
事務局次長 平川 善祥 庶務・会計担当  
事務局員 笹木 義友 庶務  
同 上 村上 孝一 事業  
同 上 添田 雄二 事業  
同 上 金森 清治 会計

※「道博協ニュース」は第63号よりA4版に変更になりました。